

戦争に負けず果樹王国に

山形県東根市にある若木（営団）開拓は、標高 1 2 0 m ほどの盆地で、山形空港の東に位置し、南側にある陸上自衛隊神町駐屯地の一部も、かつては開拓地であった。

この若木地区は戦中の 43 年に農地開発営団（農地開発するための国家代行機関）により開拓が進められ、39 名が入植した。

配分地は広大な原野と松林で、道路も自らの手で切り開き、用水は遠くの堰^{せき}を利用し、冬には雪を溶かして飲用するほどだった。重い唐^{とう}鋤^{くわ}による開墾作業は進まず前途多難を思わせたが、その苦境を打開したのは開拓者同志の強固な共同精神であった（碑文より）。

ところが、戦況が悪化してくると、44 年に日本海軍航空隊（予科練）が建設され、せっかく開墾した開拓地の一部が接収された。加えて新たに 15 戸が編入され、少ない土地に再分配されることとなった。

終戦間近には 3 度の空襲を受け、恐怖のどん底に突き落とされた。

やっと終戦となり、戦災者など 15 名が新たに編入された。

しかし、46 年にはアメリカ軍が進駐し、またも開拓地が接収された。20 戸が強制立退きとなり、主食であるジャガイモや、わずかな現金収入を見込んだスイカ畑がブルで踏みにじられた。

当初 1 戸当たり 4 町歩あった土地が、1 町 6 反までに減ってしまった。土地の返還を求めて国や県に執拗に陳情し、54 年にはアメリカ軍基地の正門前に座り込みを強行した。アメリカ軍は 56 年に撤退したが、日本の自衛隊が駐屯することに。大変な努力の末、57 年に 32 町歩が返還された。

当地では明治からリンゴ栽培が盛んで、年々技術が進歩し、品種も多様になってきた。その他に、ブドウ、洋ナシ、サクランボなどにも力を入れてきた。現在では「果樹王国ひがしね」の一翼を担っている。30 年に心のよりどころとして豊栄神社を建立した。74 年には神社敷地内に入植 30 周年の記念碑が建てられた。

若木（おさなぎ） 06-211-1

- ①調査日 平成 29 年 10 月 10 日
- ②所在 東根市若木通り
- ③地区の沿革 若木原に同じ
- ④設置年月日 昭和 42 年 4 月
- ⑤設置者 不明
- ⑥碑文（表面） 拓魂碑 碑文は判読できず。
- ⑦碑文（裏面） 入植者の出身地と氏名
- ⑧現在の状況 若木開拓歴史資料館敷地内に位置し、周辺は農協の選果場などが集積し、開拓地の中心部をなしている。ただし、営団開拓 50 年史においては本碑の記載が無く由緒は不明である。